

幼小連携・接続 オンデマンド研修動画

- I なぜ幼小連携・接続が必要か
- II ①幼児教育の役割と特長
②幼児教育で育つ力【演習】
- III ①接続期の子どもたち
②スタートカリキュラム作成のポイント**
- IV 特別支援教育と幼小連携・接続
- V 雲南市立斐伊小学校区の実践

III ② スタートカリキュラム作成のポイント

小1フロブシムの解消

すべての

+

狭い意味で
特別支援教育に
FOCUS

子どもたちが安心して
小学校生活を送るため

+

小学校以降の学びを
豊かにするため

(参考)小学校学習指導要領

スタートカリキュラムの義務化

第1章 総則

第2の4 学校段階等間の接続

教育課程の編成に当たっては、次の事項に配慮しながら、学校段階等間の接続を図るものとする。

- (1) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。

また、低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科等間の関連を積極的に図り、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。

※下線は講師

第3ステージのスタートカリキュラムとは

参考資料;『「深い学び」を実現するカリキュラム・マネジメント』
國學院大學教授 田村学氏 著

?? これまでやってきた1年生当初の指導と
何がどう違うの??

お世話しなければならない1年生



もしかしたら...
小学校生活への「適応指導」を中心に
据えていませんか？

H20年改訂の学習指導要領がきっかけ

「スタートカリキュラム」の言葉が生活科編で初登場

背景

小1プロブレム

学校に適応できない子どもの増加

クラスが落ち着かない

スタートカリキュラムの目的

学校生活への適応

学校のルールに子どもたちを慣れさせる

そのための工夫

第1ステージの取組の試行錯誤があったからこそ、スタートカリキュラムがスタートできた。

実際には、未だに第1ステージの発想で入学当初の指導にあたっている学校が多い。

?? これまでやってきた1年生当初の指導と
何がどう違うの??

× お世話しなければならない1年生
○ 6歳児としてしっかり自立した子ども



ゼロからのスタートではない

この認識は校内で共有できていますか？

発達や学びをつなぐ スタートカリキュラム

スタートカリキュラム導入・実践の手引き

文部科学省
国立教育政策研究所
教育課程研究センター 編著

H27年頃～

国立教育政策研究所から「スタートカリキュラムスタートセット」が出たことが起爆剤。

ゼロからのスタートではない

第1ステージの「学校生活への適応」を超えて、より子どもたちの目線に立った様々な取組が展開された。

ぐんぐんタイム

わくわくタイム

?? これまでやってきた1年生当初の指導と
何がどう違うの??

- 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
- 幼児期の教育を通して育まれた資質・能力
- 学びを豊かにする

「学び」にフォーカス

第2ステージからのレベルアップが必要



H29年～

H29年改訂の学習指導要領 第1章総則 に
位置づけられる。

「学び」にフォーカス

第2ステージの「安心」や「自己発揮」からさらに
に進み、幼児教育での学びを踏まえた教育活動を実
施することが求められている。

合科的・関連的な
指導

弾力的な時間割の
設定

合科的・関連的な指導は単元配列表，

弾力的な時間割の設定は週案によって

形にする。

単元配列表と週案は学校全体で共有する。

全教職員の共通理解の下で実施する。

皆さんの学校は

どのステージですか？

第3ステージを一気に目指す！

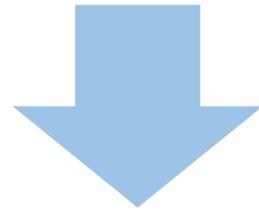
第3ステージを目指す際の大前提

幼児期の教育を
理解すること

幼児期に育まれる資質・能力

スタートカリキュラムの役割

幼児教育における総合的な学び



ギャップを埋めて、つなぐ

小学校以上での自覚的な学び

第3ステージの スタートカリキュラム

合科的・関連的な指導

弾力的な時間割

第3ステージの スタートカリキュラム

形ととなっているカリキュラム

具現化されたカリキュラム

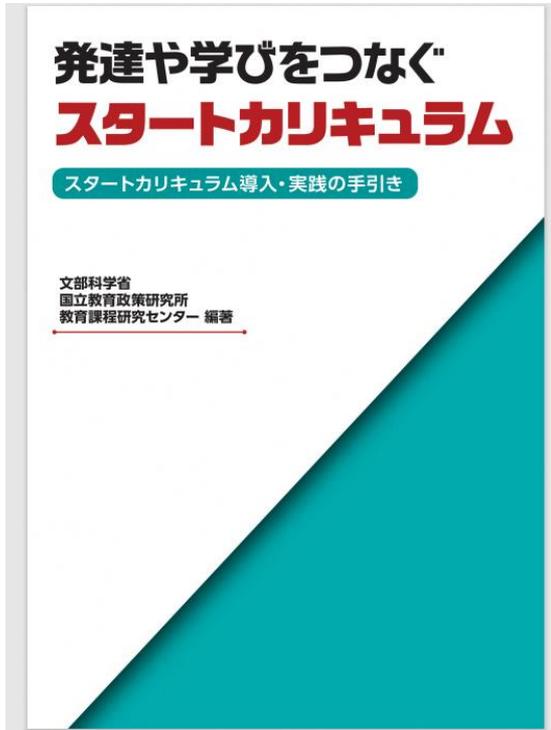
発達や学びをつなぐ スタートカリキュラム

スタートカリキュラム導入・実践の手引き

文部科学省
国立教育政策研究所
教育課程研究センター 編著

9 ページから詳しく
説明されています。

特に欠かせないもの



P 14 ~ 22

①単元の構成と配列

合科的・関連的な指導
「単元配列表」

②週の計画と時間配分

弾力的な時間割の設定
「週案」

合科的・関連的な指導は、単元配列表で形にする

- ①合 科；生活科を中心とした単元の学習活動において、複数の教科の目標や内容を組み合わせて学習活動を展開する。
- ②関連 A；生活科の学習成果を他教科等の学習に生かす。
- ③関連 B；他教科等の学習成果を生活科の学習に生かす。

第1学年 単元配列表(例)

各教科等	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週		
国語	あいうえおであそぼう						
	いちねんせい	よろしくね	はるのあさ	みつけたよ	ことばのひみつ	あめのひ	ともだちとかなそう
算数	なかまづくりとかず	くらべよう	10までのかず		なんばんめ	いくつといくつ	
生活	がっこうだいすき みんななかよし					おおきなあれ	
音楽	みんなであうたおう		おんがくにあわせて				
図画工作	すきなものいろいろ	こぶんマーク	こんなことあったよ	ねんどであそぼう	すなやつちとあそぼう		
体育	からだほぐし	ゆうぐあそび		おにあそび			
道徳	げんきにあいさつ	みんなであうたおう	ともだちとかなよく	いきものとなかよし			
特別活動	入学式	1年生を迎える会					
	よろしくね	たのしいきゅうしよく		おしごとたのしいな			

発達や学びをつなぐ
スタートカリキュラム

スタートカリキュラム導入・実践の手引き

文部科学省
国立教育政策研究所
教育課程研究センター 編

第2章
p17

弾力的な時間割の設定は、週案で形にする

- ①朝の会から1時間目を連続した時間として設定すること
- ②2時間続きの学習活動を位置づけること
- ③10分から15分程度の短い時間を活用して時間割を構成すること

スタートカリキュラム第2週の週案（例）

	第6日	第7日	第8日	第9日	第10日
日	4/〇(月)	4/〇(火)	4/〇(水)	4/〇(木)	4/〇(金)
朝	「なかよくなるう」※	「なかよくなるう」※	「なかよくなるう」※	「なかよくなるう」※	「なかよくなるう」※
安心をつくる時間	・手遊び ・お話読んで ・お話聞いて ・歌って踊ろう	・手遊び ・お話読んで ・お話聞いて ・歌って踊ろう	・手遊び ・お話読んで ・お話聞いて ・歌って踊ろう	・手遊び ・お話読んで ・お話聞いて ・本がたくさん	・手遊び ・お話読んで ・お話聞いて ・本がたくさん
ポイント 1	「がっこうだいすき みんななかよし」 ・自己紹介をしよう (国「よろしくね」2/3)	「あいうえおであそ ぼう」 ・ひらがな (国 2/3)	「あいうえおであそ ぼう」 ・ひらがな (国 2/3)	「がっこうだいすきな かよしいっぱい」 ・道具で遊ぼう (体「ゆうぐあそび」1)	「あいうえおであそ ぼう」 ・ひらがな (国 2/3)
ポイント 2	「はるのあさ」 ・数を比べよう ・学校のはてなや	「くらべよう」 ・数を比べよう (算 1/3)	「はるのあさ」 ・リズムに合わせて 読もう(国 1/3)	「見付けたものを数 えてみよう (算「10までのかず」1)	「はるのあさ」 ・聞き合おう (国 1/3)
生活科を中心とした学習活動	びつくりを見付けよ う(生1と1/3)	「はるのがっこう こんにちは」 ・春と遊ぼう (生2)	「10までのかず」 ・数えてみよう (算1)	・見付けたものを数 えてみよう (算「10までのかず」1)	「10までのかず」 ・絵を見て数えよう ・数字を書こう (算1)
ポイント 3	「あいうえおであそ ぼう」・ひらがな (国 2/3)		「はるですよ」 ・みんな生きている (道1)	「はるのあさ」 ・工夫して読もう (国 1/3)	「からだほぐし」 ・二人、三人、みんな で遊ぼう (体1)
教科等を中心とした学習活動	「なかよしだいきせん ん」 ・みんなでおしく 給食を食べよう			「あいうえおであそ ぼう」 ・ひらがな (国 2/3)	
昼					
ポイント 4	「くらべよう」 ・数を比べよう (算 2/3)	「はるのがっこう こんにちは」 ・春のTシャツを作 ろう (国工「はるとなかよ し」1)	「はるのがっこう こんにちは」 ・春のTシャツを飾 ろう (国工「はるとなかよ し」1)	「みんなであうたおう」 ・わらべうたで遊ぼ う (算1)	

※の時間については、授業時数以外の教育活動として位置付けたり、各教科等で実施したりすることが考えられる。(各教科等で実施する場合には、学習活動がその教科等の目標や内容を実現するものである必要がある。)



スタートカリキュラムを構成する活動の種類



一人一人が安心感をもち、新しい人間関係を築いていくことをねらいとした活動（安心をつくる時間）



合科的・関連的な指導による生活科を中心とした学習活動



教科等を中心とした学習活動



第2章 p20

なかよしタイム
わくわくタイム
ぐんぐんタイム

などなど



なかなか大変そう

どこから
手を付けよう

「真似から入る」
というのはどうですか？

- そのまま使えるところは使う。
- 自校の実態に合わせるべきところはアレンジする。

スタートすることが大事！

